

資料第011-1 地域協働復興訓練の事例

1 貫井地区（平成15年度）

① 訓練の概要

第1回 まち点検を行って被害をイメージする

第1回目は、貫井地区が地震に対してどのような危険や長所を持っているかを自分たちの目で見えて認識し、復興が必要となる被害イメージを持ってもらうことを目的に実施しました。

訓練では、12班に分かれて地区内の担当区域を歩き、「危険なところ」「良いところ」を点検し、写真や地図を用いて班ごとにまとめました。それをもとに、地区全体の「災害要因図」を作成し、発表会を行いました。



▲まち歩きの様子

第2回 避難生活から復興を考える

第2回目では、被災後1～2週間の期間を中心に、住まいや生活をどう確保するかを考え、本格的な再建・復興にどう備えるべきかをイメージしました。

訓練では、被害形態の似た設定のグループごとに討議し、仮の被災者になりきって（ロールプレイ）住まいや生活をどう確保するかの意見を出し合ってから、それぞれのグループでどのような問題点と解決方法があるかを話し合いました。



▲ロールプレイ

第3回 理想の仮設のまち・いえ・みせを考える

第3回目は、地区全体で仮設の住宅をどう配置し、どうしたら快適に過ごせるかを考え、「被災後も地区内にとどまる」ことの重要性をより深く認識してもらうことを目的に実施しました。

「まち」を考える班は、高齢者用住宅・公共施設などを含めた仮設住宅の配置について貫井地区全体を対象に考え、

「いえ・みせ」を考える班は、仮設住宅・店舗の模型を使って、生活の問題点と解決法を検討しました。



▲模型を使って課題解決

第4回 復興まちづくりを考える

第4回目は、実際の復興にあたり、住民としてはどんな要望があるか、それを行政と協働で実現していくために、被災前からどうしたらよいかを確認しました。

訓練では、現在の貫井地区の長短所を踏まえて、住民として要望する貫井地区全体の復興方針をまとめました。

また、各地区の復興イメージについて、写真も用いて具体的に表現したイメージ図も作成しました。



▲復興イメージの発表

②訓練の成果と今後の課題

<訓練の成果>

全4回の訓練を通じて、

- ① これまで明確でなかった地震による被害の危険性について認識できたこと。
 - ② まちの復興、個々の生活再建のイメージを共有できたこと。
 - ③ 地区全体で復興に取り組むため、「被災後も地区にとどまる」ことの重要性を確認したこと。
- などを参加者の皆さんと学ぶことができました。

<訓練の課題>

また、課題としては、

- ① 「事前に自分たちがどのような取り組みをしていくべきか」ということについて、問題意識は高まったが、具体的な活動にまでは結び付けられなかったこと。
 - ② 訓練や復興まちづくり活動において、町会や避難拠点運営連絡会に属していない住民をどう巻き込んでいくかが難しいこと。
- などが挙げられます。



③参加者の声

- この訓練に参加して、震災があったときにこの地域で復興のお手伝いが少しでもできたらいいなと思うことができました。
- 毎日歩いている自分のまちでしたが、意外と知らないところも多く、驚きました。
- 仮設住宅の設置や配置を考える訓練では、お年寄りが買い物に来て、憩いの場があってベンチで休めるような、公園のような仮設商店街を考えました。こういうことは普段全く考えもしなかったので、とてもいい経験になりました。
- 自分たちの町だから、自分たちが先頭になって守る、復興する、そんな気持ちになりました。

2 桜台地区（平成18年度）

① 訓練の概要

第1回 まちを歩いて被害をイメージする



▲まち歩きの様子

10月22日に行われた第一回目の訓練では、参加者を7つの班に分け、桜台地区内のまち歩きを行いました。

まち歩きでは、地図を片手に「災害危険要因（壊れそうな建物や狭い道路等）」と「防災・復興資源（仮設住宅候補地、防火水槽）」探しをテーマにまちの中をすみずみまで点検しました。点検終了後は、まち歩きの成果を地図に反映させ、班ごとに発表会を行いました。

◎参加者の声

・「このまちに住んで長いけど、あらためてこのまちの良い点、悪い点を知ることができ、大変有意義でした」

第2回 避難拠点から復興に取り組む



▲カードゲームで楽しく

◎参加者の声

・ゲームを通して議論のきっかけをつくる手法は大変興味深く、体験できて楽しかったです。ディベートより時間がかからず面白いアプローチだと思いました。

第二回目の訓練では、避難拠点からの復興について、カードゲーム方式で考えてもらいました。

このカードゲームは被災時に起こりうるさまざまな問題に対し、避難所にいる被災者がどのような行動を取るかを予想し、Yes、Noカードを提示するゲームです。

具体的には、「地域での復興まちづくり協議会の設立にあたり、連絡が取れる有志で早急に会を立ち上げるか、住民の大多数が会員になるよう時間をかけて発足させるか」という問題に対し、Yesなら前者、Noなら後者を予想します。

ゲーム中は、「やった！」「YESの方かー」などと大いに盛り上がりを見せましたが、参加者は様々な意見に触れ、「どっちの意見も、もっともだよ」と話すなど、地域で復興を進めることの難しさを実感していました。

第3回 応急の住まいや暮らしを確保する



▲模型を使って真剣討論



▲実寸仮設住宅

第三回目の訓練では、被災後2、3ヶ月～半年程度に直面する「応急的な住まいや暮らしの確保」について仮設住宅の模型を使いながら検討しました。

参加者を6つのグループに分け、そのうち1つのグループで「住まい再建の方針」を検討し、残りの5グループで模型を使いながら、住宅の配置計画、必要な共同施設、大事にしたい生活イメージなどを検討しました。参加者は「中心に集会所を設けては？」「ペットの問題はどうしよう？」など、少しでも快適な仮設住宅での暮らしが送れるように知恵を出し合っていました。

また、実際の仮設住宅の広さを体感してもらうために、実寸大の仮設住宅を用意しました。

第4回 桜台地区の復興計画づくり



▲計画案をもとにグループ別に検討

訓練最終回となる第四回目の訓練では、被災から2ヶ月後までの経過を想定し、復興計画策定までの進め方と復興の手順について、行政と住民による説明会形式での模擬訓練を行いました。（手順と計画案については、次の「②訓練の成果」で紹介します）

◎参加者の声

・この訓練を受けて、復興に関するたくさんの事を知ることができました。わからない事もありましたが、貴重な体験ができたと思っています。

・こうした机上訓練を繰り返すことで震災時の対応がよりスムーズに進むことが期待できますね。

② 訓練の成果と今後の課題

18年10月から全四回にわたって行われた「桜台地区復興模擬訓練」により、参加された住民の皆さんに、地震が起きて大きな被害を受けてから「まち」の復興を考え始めるということは、大変な困難が伴うことを理解していただきました。

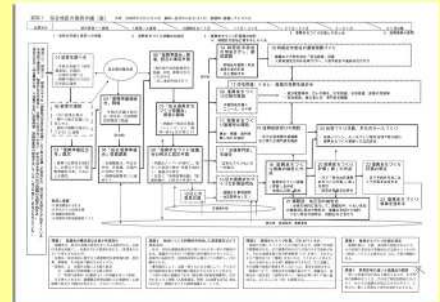
また、事前に地域住民がまちづくり活動や防災活動を行い「地域力」を養っておくことや、耐震補強や不燃化、道路拡幅などの被害を軽減するまちづくりを進めることも重要であると認識していただけたと思います。

今後は、この復興模擬訓練を地域活動のなかで実施してもらえるよう啓発・普及活動を行うこと、そして日常的な防災まちづくりを住民と行政が協働して進める体制を早期に構築することが課題といえます。

最後に、訓練に参加された住民の皆さんとともに作り上げた2つの成果物についてご紹介します。

【桜台地区の復興手順フロー】

地域と行政が役割を分担しながら、桜台地区の復興まちづくりを進める手順について、首都大学東京チームが提案したフロー図をもとに参加者とともに修正を加えながら作成しました。



◎参加者の声

- ・ 平常時の近所づきあいが決め手になりそうだ
- ・ 普段から町会などで復興について話し合っておくことが重要

【桜台地区の復興計画】



この計画は、区職員があらかじめ想定された被害状況を踏まえ、都市計画マスタープラン等を参考にしながら作成したものです。

「同じ被害を再び繰り返さない、災害に強いまち」を基本に、道路拡幅や区画整理事業などハードの復興を中心に作成しました。この計画案を第四回訓練の資料として参加者の皆さんにお示しし、ご意見をいただきながら修正しました。

◎参加者の声

- ・ 従来の事業計画の実施方法でなく、地域住民をまきこんだ新手法で展開して欲しい。
- ・ まずハードありきではない。時間も費用も資源も無駄にしない方法を考えてほしい。

③ その後の取組等

【第10回まちづくり講座 ～桜台地区復興模擬訓練を振り返って～開催!!】

この講座は、震災復興に関心のある一般区民や、訓練に参加できなかった桜台地区住民の方を対象に、復興模擬訓練を振り返り震災復興の取り組みを紹介することを目的として開催しました。

まず、復興模擬訓練の経過説明を行った後、復興に関する基調講演を首都大学東京教授の中林一樹先生にいただきました。

そして最後のパネルディスカッションでは、訓練参加者もパネラーとして参加し、事前復興の重要性や日常でできる取り組みなどを討論しました。



▲まちづくり講座の様子

【練馬区震災復興マニュアル】

現在練馬区では「練馬区震災復興マニュアル」の作成に取り組んでいます。このマニュアルには、訓練で得られた考え方や参加者のご意見などを取り入れながら作成しています。また、上記の2つの成果物もマニュアルの巻末に資料として掲載する予定です。